

教科・領域等〔 外国語 〕

1 (7) 学校間連携

 **こんな実践**

小学校の外国語・外国語活動は、学級間・学校間で内容や方法に違いがあるのではないのでしょうか。中学校に入学し、本格的な英語の学習を、どの子供も安心して開始できるように、中学校区内の複数の小学校が、外国語・外国語活動の年間授業時間数や内容を共有できるようにした取組です。

実践学校 同一中学校区のP小学校

Q小学校

R中学校

実践時期 移行期間～

- P小学校とQ小学校はR中学校に入学します。2つの小学校で、同じ年間授業時間数、指導計画で外国語科および外国語活動の授業を実施できることを目指し、移行期間に各校の担当者会議を持ち、年間指導計画を一緒に検討しました。

新年度は、4月の職員会議において両校の全教員で共有できるように、担当者がそれぞれ説明をしました。また、P小学校は各学年に係を設け、学年会で話題にし、学年の全学級が同じ指導案で進められるようにしました。



ここがポイント！

外国語・外国語活動の年間授業時数を移行期間に決定し、それを受けて両小学校の日課を再検討し同一のものにしました。

前年度のうちに翌年度の日課を数回試行し、全校でイメージをもち、実施できるようにしました。

① 小学校間の連携

授業プランや教材はALTがP、Q両小学校に持って移動し、同じものを使用し共有できるようにしました。また、それぞれの学校で今後利用していけるように、蓄積できるスペースを設け、保存していくようにしました。また、指導案を作成する際に「R町スタイル」として同じ枠を使用し、1時間の流れが同じになるようにしました。

同様に振り返りカードもP, Q小学校で同じものを使用することにしました。移行期間から担当者を明確にし、困った時には電話で気軽に相談し合えたことで、スムーズに開始できました。



内容別に教材を蓄積・保存するスペース

② 中学校との連携

中学校の先生たちにも小学校の様子を知ってもらおうよう、P, Q小学校とR中学校の全教員が小学校の外国語の授業を参観しました。子供たちの様子や小学校で実施されている外国語・外国語活動の授業を知ってもらい、子供たちが中学校入学後にスムーズに過ごし、学習できることがねらいです。

中学の英語科の先生たちには、小学校での指導内容や子供の実態を知って、中学校英語へスムーズにつなげてもらうヒントとなる時間としてもらうことを願い、参観してもらいました。また、多くの先生たちが小学生の頃には経験しなかった外国語・外国語活動の時間について、他の教科の先生たちに知ってもらえる良さがありました。



ここがポイント!

年度途中で、どのような工夫をしましたか？

- ✓ P小学校では、外国語担当職員が中心になって職員研修をしました。また、P, Q小学校の各担当が連絡を取り合い、困っていることや良かったアイデアを共有し、翌年から生かせるようにしました。

まとめ

- ・同じ中学校に進学して学ぶ子供たちが、違う小学校で学んでいても同じカリキュラムで学習を積み重ね、入学を迎えることができます。また、中学校の先生たちが、小学校の授業参観から、中学1年生の授業のヒントを見つけられるかも知れません。
- ・P, Q両小学校とR中学校は、外国語だけでなく、別の教科も授業参観をし合っています。また、P, Q両小学校の子供たち同士も、互いの学校を訪れ交流活動を全学年で行っています。年間計画に位置付けることで、計画的に実施していくことが可能です。